

<令和5年2月定例記者会見>

1 開催日時

令和5年2月9日（木）午後1時30分から午後2時まで

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、盛岡タイムス社、河北新報社、岩手日報社、読売新聞社

4 発表事項

(1) 若者人材の育成・定着に関する連携協定の締結について（経済産業部企業振興課）

滝沢市では、滝沢市IPUイノベーションパークを中心とした若者人材の育成・定着の推進を図るため、市、岩手県立大学に、若者IT人材育成のために設立されたNPO法人イノベブリッジたきざわを加えた三者により連携協定を締結いたします。今後、三者連携により、情報化人材の育成支援や、ICT技術を活用した地域内産業の発展に寄与する事業など、様々な取り組みを連携して実施してまいります。

また、協定の締結に伴い、2月16日に滝沢市IPUイノベーションセンターにおいて、協定締結式を開催いたします。取材方、よろしくお願いいたします。

(2) 第1回SDTsデーの開催について（経済産業部企業振興課）

滝沢市では、令和3年4月1日より滝沢市産業振興条例を施行しておりますが、この条例において、市民の役割として2点を規定しております。1点目は「産業の振興における事業者の役割の重要性を理解し、市内経済を循環させるため、事業者の提供する商品、サービス等の積極的な利用に努める」、2点目は「事業者とともに暮らしやすい社会の実現のため、地域づくりに努める」となります。

市民がこの役割を果たすためには、市内事業者を知り、その重要性を理解するための機会が必要と考えられることから、その機会を創出すること、また、持続可能な開発（産業振興）を滝沢市がしていくための種まきの機会とすることを目的として、ビッグルーフ滝沢でワークショップを行うものです。県内の他市町村でも同様のワークショップを開催した実績のある岩手県中小企業家同友会に委託して開催する予定となっております。

なお、「SDTs」は、SDGsをもとにつくった造語となっております、

「Sustainable Development Takizawa sowing（サステナブル デベロップメント タキザワ ソウイング）」の略となります。意味としては、「持続可能な開発（産業振興）を滝沢市がしていくための種まき」となります。当日の取材方、よろしくお願いいたします。

(3) 滝沢中央スマートIC累計利用台数300万台達成について（都市整備部都市政策課）

滝沢中央スマートICは平成31年4月に開通してから3年10か月が経過し、昨年12月には累計利用台数が300万台を達成いたしました。本スマートICは、盛岡ICと滝沢ICのほぼ中間に位置し、東北道への10分アクセス圏域が市内全域（約9割）に拡大するなど、市内外へのアクセス性に優れています。開通から順調に利用が進んでおり、令和4年では1日平均約2,500台と多くの方にご利用いただいております。

す。本スマート IC は、盛岡・北上方面への通勤・通学などへの広域的移動、交通分散による国道 4 号などの渋滞緩和、鵜飼地区の中心拠点整備などに代表される地域経済活動の支援、岩手医科大学附属病院への搬送時間短縮など、様々な整備効果が発現されています。本市の更なる発展に向けて、本スマート IC を最大限活用した街づくりや市民の利便性向上などに向け、関係機関と連携した取り組みを実施してまいります。

(4) 市長来客対応に伴う牛乳でのおもてなしについて（企画総務部企画政策課）

滝沢市では、滝沢産の牛乳の地産地消の推進及び消費拡大、また、飼料価格の高騰により経営に大きな影響を受けている酪農経営体への支援の一環として、市長への表敬訪問等でお越しいただいたお客様に対して、滝沢産の牛乳を使用した「小岩井農場 3.7 牛乳（150ml パック）」でのおもてなしを行っています。

滝沢産の牛乳はそのほぼ全量が小岩井乳業株式会社小岩井工場へ出荷されており、年間 9,000 トン以上の滝沢産の牛乳が飲用乳などに商品化されています。そのため、滝沢市産の生乳を使用した小岩井のおいしい牛乳を PR し、消費拡大につなげることが、本市の酪農家の支援の一助になるものと考えています。

今後も様々な機会をとらえて、牛乳だけではなく滝沢市産品の PR・消費拡大に努めてまいります。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：スマート IC が 300 万台達成とのことで、この目標値などはありましたか。

都市整備部長：目標値として、計画交通量を 1 日 2,200 台を予定していて、平均で今は平日 2,500 台となっており、計画値は上回っています。若干早いペースで目標を達成していると思います。

記者：この点について市長の所感を聞かせてください。

市長：スマート IC はそれだけ利用者も多く、これからは観光の利用にもつなげていけるようにしたいです。そして何よりも企業誘致を積極的に進めていくためのスマート IC 周辺の工業団地の計画を推し進めるというのも私の公約でした。今日も盛岡広域振興局の方にお話ししましたが、まずは県道の混雑を緩和しながら、併せてスマート IC の利用拡大にもつなげていきたいです。

記者：牛乳によるおもてなしはいつから始めたものですか。

市長：2 月 1 日からです。

記者：感触や反応はどうか。

市長：滝沢市産の牛乳を使っていることを話すと、驚く方々が多いです。滝沢市で生産された牛乳という視点で見ていた方が少なく、どこでつくられ消費されているかということがしっかりと伝わっていなかったものと思っています。滝沢市産の牛乳が小岩井工場で作られ流通していることが市民の皆さんをはじめいろいろな方に伝われば良いと思っています。いつも渡す時は、「どうぞ PR してください」と話しています。

記者：牛乳について、お茶を出すことが一般的かと思いますが、このアイデアが浮上してきた状況を教えてください。

市長：いろいろなところを伺って、お茶の場合だと片付ける人のことも気にしてしまいましたが、その中でせっかく飲むのであれば、しっかりと滝沢の牛乳のことをアピールしたい、牛乳消費につなげたいと思い、職員の皆さんとも相談し一緒に盛り上がりました。

副市長：こういった形で提供できるかを職員としても検討してきましたが、最初のアイデアの発議は市長でした。

記者：実際に来てもらう人たちには、その場で飲んでもらったりすることもあるし、持って帰ったりしてもらうこともあるという形ですか。

市長：「お持ち帰りしていただいているですよ」と話しています。また、牛乳を使ったお菓子であったり、食事であったり、ビッグルーフ滝沢でも食事を提供していますので、新しいメニューができないか検討しています。牛乳を使った料理コンテストなども実施していけば、もっと消費拡大が市民の皆さんに伝わるのではと話しているところです。

記者：別なアイデアも今後考えていくということですね。

市長：はい。葛巻鍋というものがありますが、その滝沢版など、一緒になっていろいろな形で実施していけたらと思います。

記者：SDTsのワークショップについて、産業振興に関する話題は主催する側が設定した形で話し合うのか、そもそも課題の洗い出しから行うのか、進め方を教えてください。

企業振興課長：産業振興条例の中で、市民の役割として自ら市内事業者のことを知って利用していただくことが謳われているので、大きい目的とすれば、市内事業者を知って地域に根付いていただくことの重要さや必要性を考えていただく機会と捉えています。課題のつくり方として、今は知ってもらい必要性に気付いてもらう段階のため、個別に焦点を当てるものではありません。参加者は市民が主ですが、市内事業者にも複数入ってもらい、「地元でこういうのがありますよ」ということを広めていきます。

記者：牛乳について、これは予算措置を行っているものですか。

企画政策課長：今年は現状の予算の中で準備しています。

6 その他記者からの当日質問

記者：卒業式のマスク着用について見直すような動きも出ています。政府の方針が出ていませんが、滝沢市の小中学校などでの対応は検討していますか。

市長：まずは国の方針がしっかりと決まってからだと思います。併せて、参加する児童生徒が気持ち良く卒業することが第一です。卒業生、そして見送る生徒、両者がいろいろな思いを込めて過ごす一日になると思いますので、大切に扱っていきたいと思っています。

記者：市長選の中でも公約に掲げていた盛岡赤十字病院の移転に向けた動きですが、何か今時点で進捗があれば聞かせてください。

市長：これまで、盛岡赤十字病院、県知事、盛岡市長、県の医師会、岩手西北医師会、さまざま挨拶し情報交換をさせていただきました。この後こういった方法で進めるか情報収集しているところです。焦って進めることでもないと思いますし、お互いがしっかりと理解できるような環境をつくって進めるべきではないかと思っています。一番は、盛岡赤十字病院を第一に考えて、少しでもご理解いただけるよう、より良い方向に持っていけるよう最大の努力をしているところです。

記者：盛岡赤十字病院に挨拶に行ったというのは、前回の市長会見の時に「これから行きます」と言っていた件ですか。

市長：はい。一番初めに行きました。

記者：それはいつ頃ですか。

企画政策課長：12月1日です。

記者：日本赤十字社の本部にはまだ行かれていないのですか。

市長：本部に行くのが一番良いのか、あるいは順番があるのか、調べているところです。

記者：盛岡市議会の方で盛岡赤十字病院の移転に反対する動きが出ていますが、どのように見えていますか。

市長：いろいろな議論が生まれることは良いことであり当たり前のことと思っています。

それにより私が気付かない視点もあるかもしれませんし、それに対してさらに考えが深まることもあるかもしれません。熟度が増すと思っています。

記者：昨日の本会議で、市総合計画の期間延長が否決されましたが、改めてこれに関する市長の所感や市民生活への影響について聞かせてください。

市長：もう少し冷静な議論ができればよかったというところがあります。それはこちら側の提案や説明の仕方が足りなかった部分もあったのかもしれません。それがあからこそ議会であり、新しい緊張感を生むひとつのきっかけになったと思います。私も勉強させていただきましたし、議員の皆さんもまたさらにいろいろな角度から考えられるのではないかと思います。まずは私がすることは、市民生活、そして市政に停滞がないように、この後も計画について考えていきます。

記者：盛岡赤十字病院の話も含めて、第2次総合計画ではどういった部分に重点を置いていきたいと考えていますか。

市長：もともと総合計画は、市の目指す着地点を示すものであって、盛岡赤十字病院を誘致するというような個別具体の案件名を示すものではないと思います。地域医療の充実や子どもを産み育てられる環境をさらに進めていくということが総合計画の一番の中身だと思っています。盛岡赤十字病院の誘致が一番という書き方はしないものだと思っています。そののところでは、当たり前の手法であると思っていますし、また自分の公約をしっかりと盛り込んで、総合計画をつくることが自治基本条例でも示されていますので、市民の皆さんと共にこれからの滝沢市の向かう方向性をつくり、示すことができたらいと思っています。